

第29回 学習院大学史学会大会

2013年6月8日(土)

会場：学習院創立百周年記念会館

9:45~10:45

総会【小講堂】

報告

11:00~12:00

【第1会議室】

御守殿への援助金をめぐる幕藩交渉

吉成香澄 (学習院大学大学院博士後期課程)

【第3会議室】

「通利水大道」刻石再考

放生育王 (学習院大学大学院博士後期課程)

13:00~14:00

【第1会議室】

前期倭寇最盛期における対馬宗氏

—「唐人の安堵料」と朝鮮被虜人の送還をめぐって—

大矢野範義 (学習院大学大学院博士後期課程)

【第3会議室】

アウグストゥス時代における「イタリア人」の創造

イタリア半島の民族の統合過程に関する一考察

梅崎貴宏 (学習院大学大学院博士後期課程)

14:10~15:10

【第1会議室】

19世紀末から20世紀初めにかけてのフランスの植民地政策

—同化政策から協同政策へ—

白井拓朗 (学習院大学大学院博士後期課程)

【第3会議室】

朝鮮燕行使のみた清朝における朝鮮人被虜とその子孫

島暁彦 (学習院大学学長付国際研究交流オフィス RA)

講演

【小講堂】

15:30~16:30

千葉 功 (学習院大学教授) 日本近代史学史研究のための予備的覚書

16:45~17:45

武内 房司 (学習院大学教授) ヴェトナムに根づく中国近代の民衆宗教
~先天道からカオダイ教へ

18:00~20:00 懇親会

学習院大学文学会共催



学習院大学史学会

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~hist-soc/>

東京都豊島区目白 1-5-1

Tel: 03-3986-0221(内線 5661)

お問合せ: hist-soc@gakushuin.ac.jp

【内容紹介】

報告

吉成香澄 御守殿への援助金をめぐる幕藩交渉

本報告で扱うのは、徳川将軍の息女が大名へ嫁いだ際に、生活の場として設置された「御守殿」への幕府からの援助金である。特に、十一代徳川将軍家斉の息女で、水戸藩へ嫁いだ峯姫を事例とする。御守殿の経費は莫大で、藩と幕府に大きな負担であったとされる。峯姫の御守殿に対する幕府からの援助金をめぐり、どのようなやりとりが行われたのかを追求する。

放生育王 「通利水大道」刻石再考

本報告では、永田英正（編）『漢代石刻集成』（同朋舎出版、1994年）所収の『「通利水大道」刻石』について、趙君平・趙文成（編）『河洛墓刻拾零』（北京図書館出版社、2007年）所収の『都郷水利客舎約束石券碑』と照合し、誤訳を正して内容を検討する。

大矢野範義 前期倭寇最盛期における対馬宗氏—「唐人の安堵料」と朝鮮被虜人の送還をめぐって—

従来の研究状況において、14世紀後半の前期倭寇と対馬宗氏との関係は十分に明らかにされたとは言い難い。そこで本報告では15世紀に平和的通航者へと変貌していく前段階の対馬宗氏と倭寇の勢力との関係を、「唐人の安堵料」文言を含む史料を手掛かりとして探る。そして、被虜人（倭寇によって捕らえられた人々）をめぐり政策の転換と朝鮮半島への倭寇侵襲数の因果関係を、幕府あるいは九州探題との関係も視野に入れながら論ずる。

梅崎貴宏 アウグストゥス時代における「イタリア人」の創造 —イタリア半島の民族の統合過程に関する一考察—

本報告では「イタリア人」の創造について扱う。ローマ史におけるイタリアは、アウグストゥス政権の支持基盤になる等の重要な役割を果たしたと考えられている。しかし従来の研究におけるイタリアは「国民国家史観」をもとにした解釈であった。古代においてイタリア半島に様々な民族がいたが、「イタリア人」はそれらの民族を統合した名称であると考えられる。この「イタリア人」はいつ現れたか、また何をもって様々な民族を「イタリア人」に統合していったかについて改めて考察していく。

白井拓朗 19世紀末から20世紀初めにかけてのフランスの植民地政策—同化政策から協同政策へ—

従来の研究ではフランスにおける植民地政策は、フランス革命期から一貫して第三共和政期に至るまで同化政策が取られていたとされている。しかし、同化政策を必ずしも一貫して継続していたとは考えられず、徐々にではあったが、20世紀初めには協同政策へと転換していった。フランスの植民地政策が同化から協同へと移行していったということについて、日本での研究を中心に置きながら考察していく。

島暁彦 朝鮮燕行使のみた清朝における朝鮮人被虜とその子孫

丁丑（1627）・丙子（1637）年の2度にわたる胡乱で被虜となった朝鮮人はその一部が贖還という形で買い戻され、朝鮮に帰還した。しかし、贖還されずに清朝内部に留まることになった朝鮮人被虜も少なからずいた。そうした人々に対する先行研究は管見の限り、ほぼない。そこで、この度の報告では清朝へ派遣された朝鮮燕行使が道中で見聞きした朝鮮人被虜とその子孫について検討したい。

講演

千葉功 日本近代史学史研究のための予備的覚書

歴史学の拠って立つところが揺らいでおり、歴史学研究者が自省するためでしょうか、近年、歴史学の歴史、すなわち史学史的な研究が多く出てきております。その焦点の一つは、日本において近代歴史学が「成立」した明治期にあると思われれます。歴史学は国家ないし社会とどのように切り結び、どのような結果に直面したのでしょうか。勉強を始めたばかりですが、今の段階で考えていることを御話ししたいと思います。

武内房司 ヲトナムに根づく中国近代の民衆宗教 ～先天道からカオダイ教へ

19世紀後半以降、華南・ヴェトナム間の交易が盛んとなるなか、多くの華人がヴェトナム南部に移住した。こうした移民たちの内面を支える役割を担ったのが先天道などの民衆宗教であった。本報告では、現地調査やアーカイブズ調査で得られた知見をもとに、華人の枠を越えて現地ヴェトナム人社会にも受容され、1920年代に勃興したカオダイ教などの新たな宗教運動に少なからぬ影響を与えた中国近代の民衆宗教の伝播と変容の過程に光をあててみたい。